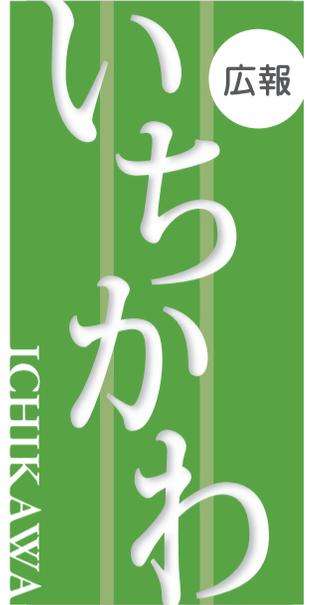


日本現代工芸展や日展など国内にとどまらず、海外展にも出品。市川市民文化奨励賞(2000年)、千葉県卓越技能賞(2002年)を受賞。



この街が好き 30  
人・風・光  
日  
Japan / Italy  
伊の深趣。



発行:市川市  
編集:企画部広報担当  
〒272-8501  
市川市八幡1-1-1  
☎047-334-1111  
FAX047-336-2300  
ホームページ  
<http://www.city.ichikawa.lg.jp/>

3月7日  
2009年(平成21年)  
毎月第1~第4土曜日発行  
No.1321

市川市の人口 2月1日現在  
●人口…473,109人  
(前月比 +54人)  
男242,323人/女230,786人  
●世帯…216,182  
(前月比 -156)

今週号の紙面から

●特集

発見がある  
出会いがある

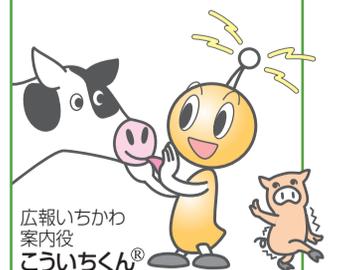
信篤・二俣  
街回遊展

妙行寺



……………4・5面

- 歴史博物館  
「昔のくらしコーナー」  
……………2面(歴史・文化)
- 満点のエコポカードを  
乾海苔や野菜に交換  
……………2面(地域・社会)
- 鴨場見学会団体募集  
……………3面(自然・環境)
- 春らんまん  
駅からウォーキング  
……………6面(健康)
- 共に支え合い、助け合う  
「地域ケアシステム」  
……………7面(地域・福祉)
- 「ふれあい七社めぐり」  
……………8面(フォト・ニュース)



生命誕生の感動を伝え続ける  
独自の木象嵌技法。



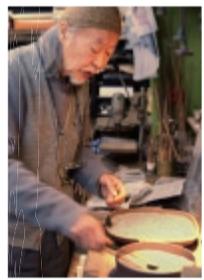
生命の誕生をテーマにした「胎河観想」



千葉県指定伝統的工芸品に指定(1996年)された作品

「もつと適した木があるのではないか。もつと木の選び方を考えてみるべきか。構成や配色に自問自答の時間を掛けることが、完成度の高さに影響します」。色調の異なる種々の木を象へかたどって嵌(は)め込む木象嵌で、絵や図柄を表現する木画を、半世紀以上も探究し続ける戸島甲喜さん。日本とイタリアの木象嵌の伝統技術を見事なまでに融合させた趣のある作品を、北方の真間川沿いにあるアトリエから送り出し、市川の文化の担い手として新たな伝統の道を切り開いています。

「日本の木象嵌技術はとても繊細で正確ですから、木の組み合わせだけで美しい陰影を作り出しますが、微妙なグラデーシヨンは難しい。それを、かなえてくれるのがイタリアの『焦がし』の技術です」。絵や模様と



なるべく、糸鋸機械で切り抜いた小さな木片をピンセットでつまみ、熱した川砂に幾度もくぐらせる『焦がし』。神経を集中させ、表面は焦がし過ぎず、それでいて中心部までしっかりと焦がしていくこの作業によって、奥行きのある立体感が生まれ、見る者の心を揺り動かします。

「長女を身ごもった妻のおなかにそっと手を触れた時、見えないがそこにある確かな命の鼓動に感動し、以来、生命の誕生を主要なテーマにしてみました」。作品に描かれるのは、深い愛が渦巻き、大きく温かく包み込まれるような心象世界。それは戸島さんの原点であると同時に、私たちの原点でもあり、今を生きる意味を教えてくれているようです。

市内では、文化会館3階のロビーに宇宙をイメージした作品が展示されています。その神秘的な世界と向き合ったあなたは、どんなメッセージを受け取るのでしょうか。